

# NEWS こんにちわ

## 乳幼児委託に向けて “How to do it” 保存版

編集部



乳幼児からの里親委託が推進されています。幼少期ほど、家庭の中で安心して育つ環境は大切ですが、まだ言葉もおぼつかない赤ちゃんを引き受けるのは不安もいっぱい。そこで、乳幼児ならではの特徴や、交流時の心得など、よくある不安や疑問を専門家にぶつけてみました。

お話を伺った人：

浅野 しのぶ さん：社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院、里親支援専門相談員

渡邊 真紀子 さん：社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 里親交流支援員

※お二方から伺ったお話を、編集部独自の切り口でまとめました。そのため、どちらの方のお話かは区別しておりません。あらかじめご了承ください。

### 里子になる赤ちゃんたちにはどんな背景が？

**Q：**二葉乳児院では東京都のモデル事業として新生児の里親委託を推進しているほか、たくさんの乳幼児を里親家庭につなぐ支援をされていますね。まず、乳幼児をお預かりして育てようと考えたときに、その赤ちゃんがどうして乳児院に来ることになったのか、子どもの抱えている事情を知ることにも第一歩だと思います。

**A：**ほとんどの子どもたちは実親さんがいらっしゃいます。そして様々な事情から子育てができないうるのですが、母親自身が厳しい生活環境にいることも珍しくありません。妊娠期に定期健診を受けられずに出産するケースも多く、ドクターも妊娠中の経過を把握できておらず、出産後に赤ちゃんの健康状態を検査して、健康上の問題があれば必要な医療措置を施す必要もあります。

**Q：**健康上の問題というのは、具体的にどのようなケースでしょうか？

**A：**妊娠中の飲酒や喫煙の影響が赤ちゃんの健康面などに影響を与えている懸念があったり、赤ちゃんに母親の性感染症が感染して治療が必要な場合もあります。ただ、適切な治療によって治癒していきますが、必要な治療や通院期間、その後の経過を見ていく必要がある点など、その子によって異なるので、養育者はきちんと事情を理解して

おく必要があります。出産期のハイリスクにさらされて生まれてきた赤ちゃんもいるので、健康面の配慮はとても大事です。

**Q：**妊娠中の母親の心理状況も赤ちゃんに影響すると聞きますが、メンタルな面はどうでしょうか？

**A：**乳児院に来たばかりの赤ちゃんのなかには、表情が乏しかったり、泣き声も笑い声も小さかったり、いわゆる「大きな声で泣く、元気な赤ちゃん」ではないケースがあります。生まれてすぐ母親から離された離別体験もあるでしょう。感情が弱いというか、抱かれるのもぎこちなかったり、かすかな音に驚いたり、過食もあります。

**Q：**愛情を注いで面倒をみると、そんな赤ちゃんが変わっていきますか？

**A：**それは目を見張るほどの変化です。声の出し方、体の動き、表情、食欲、日々活動的になっていく様子を養育者たちは抱っこしながら実感しています。

### 面会できるなら、里親に預けたいという実親も

**Q：**子どもたちには実親さんの面会がある子と、最初から一度も訪ねて来ないケースがあると聞きます。面会の有無や頻度で子どもにどんな影響がありますか？

A: 最初から養育が難しく、実親さんが希望している場合には、児童相談所が特別養子縁組をすすめていきます。ほとんどの実親さんは入所時には引取りの意思を持たれています。母親が、育てる意思があつて面会に来る場合には、親子の関係がしっかり結べるようお手伝いします。お部屋にはいつも実親さんの写真を飾つてあつて、面会に来られなかったときなどは次の交流を待とうねと励ましたり。普段は離れていても子どもは母親が大好きなんです。年端もいかない子ども、母親の愛情を理解しているようです。

また、若い母親が多く、彼女たちの生活環境や心情も揺れ動くので、母親の生活が安定できるようにソーシャルワーカーと連携してサポートすることもあります。結果として自分で育てられなかったとしても、子どもは親に愛されていることを確認できることがとても大事ですし、きちんと愛着がもてていると、里親さんに委託したときにも愛着関係が作りやすいですね。

Q: 養育家庭に預けても子どもと面会ができるのなら、里親さんをお願いしたいという実親さんも増えているとか。

A: 実親さんとの面会や家庭復帰の可能性を前提とした委託も増えています。実際の面会は児童相談所で行うことになるので、里親さんは送迎などのご負担もありますが、子どもは里親さんに守られているから安心して実親さんに会えるという面もあるでしょう。子どもにとってお互いに大切な存在と認め合えていることが大事なのだと思います。

Q: 幼少期だとアイデンティティが混乱する心配はないのでしょうか？

A: 揺れる思いも出てくるでしょうが、里親さんがそんな気持ちを聞いてくれて、一緒に考えてくれる存在でいてくれると、子どもはどれほど心強いことか。



**里親との出会いに興奮する子ども**  
「ホントは好きだけど、  
キライって言っちゃった!!」  
日に日に、おしゃべりに

Q: 里親にとっては、子どもの紹介は待ち焦がれた感があつて、思い入れいっぱい交流をスター

トさせるのですが、いざ始まってみると、泣き笑いのドラマがあつて、くじけそうになることもあります。

A: 子どもにとっても里親さんとの出会いはとても大きな出来事なんです。興奮して、熱を出すことだってあります。子どもの感覚は敏感で、0歳の乳児であっても、初めて抱かれたときにこの人は自分にとって特別な人なんだと分かるようです。

Q: 私にも記憶がありますが、初めて抱っこしたとき、次の瞬間にはもう、よその子どもではないような感覚を持ちました。



A: 里親さんがお帰りになった後も、テンションが上がっているのが分かります。里親さんといたときには、恥ずかしさや緊張で固まっていた子どもであっても、特別な出来事だったのをしっかり感じ取っていますね。

Q: そうなんですね。でも、最初のうちはなついてくれない時期があつて、何度か交流を重ねるうちに、寄り付いてくれない時期があつて、あやそうとすると泣かれたり、担当保育士さんの後ろに隠れてこちらを避けていたりすると、心が折れそうになります。

A: 人見知りというのも子どもの発達の一部ですからね。それに、慣れてくると、好きなのに「嫌い」、うれしいのに「やーだ」と、反対の行動を取ったりしますよね。わざわざ時間を作って会いに来て、重い足取りでお帰りなる里親さんの姿もたくさん見てきました。



## 2時間泣き続けた子ども、「楽しかった」の一言

Q: ちっともなついてくれなかつたり、「大嫌い」なんて言われて、里親のほうが大泣きすることもあります。

A: あるお子さんは里親さんがいらしている間中、2時間泣き続けていました。私もその場において、「なんで泣くんでしょうね」とか言いながら、里親さんといっしょに2時間の泣き声を聞いていました。里親さんがお帰りになった後、その子は「きょうは、たのしかつた」って言ったんです。

Q: 私たちは交流の時間が終わると帰ってしまうので、その後の様子はわかりません。赤ちゃんであっても繊細な感性をもっていて、私たちが帰った後には、違う顔を見せるのです。

A: 次に里親さんがいらしたときに、お帰りにな

った後の子どもの様子をお伝えしたりします。交流を通じて、子どもの様子は目に見えて変わっていきます。表情が違ってきたりおしゃべりが増えたりになります。



つれなくされると、  
担当保育士さんに、  
つい、ヤキモチも

Q:子どもというのは、笑顔で甘えてくるだけが、なついているわけではないのですね。それでも多くの里親が交流期間中に落胆したり、この子は担当保育士さんが大好きで、私のことは嫌いなのかと、ヤキモチを焼いてしまうこともあります。担当保育士さんがいつまでも子どものそばにいるから、私との関係が築けないのではないかと、嫉妬めいた感情が湧いてくることもあったり。

A:担当保育士は子どもが里親さんのお宅で生活することが何よりしあわせだと分かっています。乳児院では子どもに特定の担当者をつけるので、母親代わりの役割を担いますが、交代制の勤務ですから、いつもそばにいてあげられるわけではないし、仕事を辞めることだってあります。それでも特定の保育士と密な関係を作ることで、子どもは愛着関係をベースにした人格が育ちます。

Q:確かに、保育士さんの背中に隠れていた子が、わが家に来ると、私のお尻に隠れるようになりますね。

A:子どもは24時間、里親さんの愛情を独占できる。それは乳児院では叶わないことで、里親さんとの交流が深まってくると子どもは自信たっぷりの顔を見せてくれます。



里親の不安が子どもに伝播?

委託に至らなかった事例も

Q:里子と里親も人間同士なので、性格が合う、合わないも、あるかもしれません。子どものほうが最終的になつかなかなくて、委託に至らなかったような事例はありますか?

A:里親さんが委託を受けるかどうか迷っていたりしている場合、里親さんの不安感を子どもが敏感に感じ、交流がうまくいかなかったということかもしれません。

Q:何歳ぐらいの子ですか?

A:ちょうど1歳ぐらいでした。里親さんはとても真面目な方で、オムツの取り換え方からミルクのあげ方、抱っこ仕方、あやし方、一生懸命になさっていて、でもその年齢の子は急激に成長する時期なので、里親さんがやっと習得しても、次には子どもが成長していて、また振り出しに戻ってしまったと、疲労がたまっていたのだと思います。

Q:こんな状態で、本当に私に育てられるかしら、と自信をなくしてしまうのですね。

A:大事なことは、一人で抱え込まないことです。お子さんのことを同じチームとして一緒にどうしたら仲良くなれるかを相談しながら、一緒に考えていけるといいのではと思います。

Q:オムツ替えひとつとっても、上手にできなくていいんですよ。でも、初めての子育てで、里親になるんだと意気込みがあると、めいっぱいがんばって、うまくいかないことに落ち込んでしまいます。

A:子どもはどんどん成長しますから、うまく対応できないときは、サポートをしてもらえばいいんです。何かできなければならぬということではなく、お子さんとその時間を一緒に過ごすだけでも、子どもにとってとても大切な時間になっていますので、ぜひ自信を持ってお子さんに会いに来て頂けたらと思います。



委託後に見せるいろんな姿

出身施設など使いやすいサポートを選ぼう

Q:晴れて正式な委託となり、家族の一員となってくると、家の中も花が咲いたようで、生活が一変します。楽しい暮らしの始まりですが、交流期間中にはいい子だった子が、思いもよらない行動をしたり、甘えたい気持ちをストレートに表現することもあり、本当にこの子を育てられるかしら、と途方に暮れることも、何度もあります。

A:子どもは新しい生活に慣れるにつれ、里親さんの愛情を確認するために、甘えたい気持ちが出るのでしょ。それまで十分に満たされなかった愛情を取り戻そうとするように、ずっと甘えたり、夜寝なかったり、わざと里親さんが困ることをしたり、里親さんの育児ストレスは相当なものだと思います。

そんなときには、自分だけで何とかしようとせず、児童相談所を始め、地域の里親支援専門相談員、子どもの出身施設、里親支援機関のスタッフ、地域の子育てひろばなど、チームの一員として様々な相談機関がありますので、使いやすいサポートをどんどん使っていただきたいですね。

**Q:** 家事支援やレスパイトの制度もありますが、自分で頑張らなければと、あまり制度を活用しない方もいらっしゃいます。使ってみると、けっこう助かるのですが。

**A:** 子どもは生まれた時から背負っている不安感

や愛情の欠乏感を引きずっていることもあり、里親さんのご家庭で安心すると、いろいろな行動が出てきます。そんなときには、一人で悩まないで、使える制度、使いやすい支援をどんどん活用してください。

**Q:** 里親の心の動きは子どもに伝わるのですよね。では、子どものしあわせのためには、私たちの気持ちも穏やかでいたいですね。これからも頼りにさせていただきます。

本日は有意義なお話をありがとうございました。

## ❁ 夏休み企画「山キャンプ」(8/23~25)を開催しました。

参加者は子ども31名(幼児~高3)、里親5名、里親専門相談員8名の総勢44名でした。参加者のSちゃんが作文を書いたのを掲載します。

### 「山キャンプに参加しました。一河口湖2泊3日」 Sちゃん(小学6年)

私は、山キャンプに行きました。バスに乗ると知らない人がいっぱいいました。でも私のとなりはUちゃんでした。Uちゃんとは遊んだことがあって仲良しです。一緒にしゃべったり笑ったりしました。

一日目は、バスから降りた後、部屋に行きました。私がびっくりしたのは、部屋が丸太の木で出来ていたことです。何も塗っていない木です。一つ残念なことがありました。二日連続雨が降っていたことです。私は、雨が降っていたので、ちょっとがっかりでした。でも、みんなが笑ったり遊んだりしていたから、私も笑顔を取り戻せました。一番うれしかったことは、最初は「みんなと仲良くできるかなあ」と思っていたけれど、みんなから「友達になろう」と言って誘ってくれたことです。かくれんぼをしたりしました。夜は、美味しいごはんや気持ちいいお風呂に入りました。

二日目は、朝起きて着替えてから歯磨きをしたりしました。朝は美味しいごはんを食べました。私は食べ物で好きなものは、みそ汁、ごはん、パン、納豆です。でも、他の食べ物も美味しかったです。

お出かけもしました。私は雨の中のお出掛けが嫌いでした。でも私が大好きなプールだったので行きました。プールでウォータースライダーを滑りました。何回も何回も滑りました。プールが終わった後は、疲れました。でも気持ちいいお風呂に入ったら疲れがとれました。お風呂に行こうとした時、大きなカエルいました。とても驚きました。それから部屋に戻って「アバロアのプリンセスエレナ」や「アラジン」のDVDを見ました。

三日目は、山に登っていい木を見つけて食堂でキーホルダーを作りました。キーホルダー作りを教えてくれたのは、鈴木さんです。1つ2つ3つと作っていくうちに、終わりの時間になってしまい、金具が足りないのに気が付きました。鈴木さんはやさしくて「いいよっ」と言って足りない金具をくれました。私は、鈴木さんに申し訳ないと思いました。でも、キーホルダー作りが出来るととても良かったです。今でも大切にしています。

みんなととても仲良くなれたから、来年も行きたいと思いました。

山キャンプは、本当に楽しかったです。



## ＊「里親サロン」訪問



里親サロンは、その手法に決まりはなく支部独自に工夫して進められています。運営の仕方もさまざまなら、雰囲気も違います。気軽なおしゃべりの中に、「大事な、大事な、課題」がのぞいていることも。そんな現場を編集部がレポートします。

### つくし小平支部 支部里親サロン(おしゃべり会)

場所：小平児童相談所5階

日時：10月18日(木) 12時半～14時15分

参加人員：里母13名(幼児さん1名)



最寄り駅から7分余りに位置する小平児童相談所内で支部里親サロンが開催されていました。近況報告を全員で行った後、フリートークになりました。近況報告は心を割った内容になっていました。もしかしたら声を小さくして2～3人だったら話せるのでは?という内容が堂々と13名の前で話せて共有出来ることが、つくし小平支部の強みなのだろうと改めて感じました。



先輩里親さんが現状を包み隠さず話すことによって、まだ登録間もない里親さんも自然と流れるように言葉を発することが出来るようでした。

フリートークでは、女子高校生の門限について意見交換が行われました。各々が経験を基に、PM 9時、9時半、10時と出る中、「制服で夜10時過ぎに歩いていると補導されますよ、気をつけましょう!」という意見がでました。そうです!補導されないように気をつけてあげなければなりませんね。また「今だけを生きないで、将来を考えて未来を想像しながら生きること」を子どもに事あるごとに話すようにしています、という意見もありました。

高齢児童との生活は、ややもすると会話が少なくなったりすることもあります。共通の趣味を持つことで解消されることが多々あることも経験に基づき語られました。テニスと一緒にやったり、子どもが弓道をやるようになったので里親さんも弓道体験に行ったりアニメについて語り合うことで場が盛り上がっているなどの話題が出ていました。ご家庭での健闘が言葉によって皆さんに伝わることで、それが当たり前で自然に感じられ、周りに継承されていくように感じました。それは苦労ではなく楽しいことなのだと言っていました。



終了後も個別に話の花が咲きます!

また参加したくなる「元気の出る里親サロン」でした。

つくし小平支部には14名の委員がいて「できる人ができることをできるだけ」という方針で、すこしずつ支部の仕事を分担しています。また、いろいろな方の声を聞き、必要に応じたサロンを企画することを心掛けています。

支部活動にあたって心がけていることは?  
つくし小平支部 藤井珠美さん

## ＊ 支部探訪『つくし小平支部』

つくし小平では月に1回、サロン(「おしゃべり会」と呼んでいます)を開催しており、毎回10名前後の参加があります。お弁当を食べながら、お菓子をつまみながら、近況や悩み事などざっくばらんにおしゃべりします。また、何かテーマを決めて話し合うことも

あります。

私は里親登録2年になりますが、登録直後にお誘いをいただき初めてサロンに参加しました。ドキドキしながらドアを開けましたが、「何かあったらいつでも言ってね!」という当時の支部長さん・副支部長さんからの言葉が嬉しく、翌月からほぼ毎月参加しています。これまで活動してきた方々のおかげで、登録年数や年齢に関わらず自由な雰囲気での発言ができるとても居心地の良い支部になっているのだな〜と感じています。

未就園児を受託後はその子も連れて参加しています。みんなに構ってもらえて子どもにとっても楽しいサロンになっていますし、私も里親仲間に見守られている安心感を感じています。

さて、当支部のエリアは小金井、小平、西東京、東大和、清瀬、国分寺、東村山、武蔵村山、東久留米の9市で、約35名が加入しています。

最大の行事は年末のボーリング大会&忘年会。毎年楽しみにしている里子さんが多くいます。夏には宿泊行事があり、去年に引き続き今年も秩父方面で川遊びをしました。大きな里子さんたちが小さい里子ちゃんの面倒をよく見てくれ、里親たちものんびりした時間の中で色々な話ができました。年度末の「成長を祝う会」では大学生の元里子さんや高校生を中心に、皆でお料理をして会食をします。私たちも2年続けて参加しましたが、うちの里子ちゃんも他の里子さんたちも一年で文字通り成長しているのが実感できて、思わずじんわり涙が出てしまいました。

ここ数年は、思春期や自立前の時期を迎える受託児童が多くなりました。そのため、とくに高校生同士のつながりを築くことができるような行事を増やしています。逆に新たな受託は小さい子が増えてきて、一緒に遊ばせたり玩具や洋服などのお下がりなど、支部活動以外での交流もしています。（菅野 智美）



## ✿平成31年度の東京都への要望書は、「家庭養護」のベースづくり

**家庭養護を推進するためには、普通の人が無理なく担える制度整備が必要**

厚生労働省から出された「新しい社会的養育ビジョン」は、子どもが健やかに育つにふさわしい環境として「家庭」を最優先するもので、それを受けてそれぞれの自治体でも様々な対応が進められようとしています。

東京養育家庭の会（以下、会という）では、私たちの養育経験からも、子どもの育ちの場としてどれだけ家庭が大切かを痛感しており、実質的に里親委託が増やせるよう、具体的な要望を東京都に挙げています。

**委託数伸び悩みの原因を、一つひとつ解消することが基本**

会では、実効性のある対策を進めるために、東京都の実態に合わせた計画見直しの議論に、私たち養育家庭の代表者も参画させてもらえるよう要

望しています。里親を増やすこと、里親子への適切な支援を整えることなどが重要です。

とりわけ、乳幼児の養育家庭への委託を積極的に推進するには、やるべきこと、やれることはたくさんあります。現在、二葉乳児院で乳幼児委託のモデル事業が実施されており、その成果と課題を広く共有し、都全体に広げていく必要があります。

**特別区に新たな児童相談所を設置すること**

これまでの里親子への支援や対応が低下しないこと、広域対応ができるようにすること、関係情報を都と区が共有できるシステムを構築することなどが話題に出ました。

**委託後の子どもへの支援を。施設のノウハウを活かせるはず**

今年度から里親支援専門相談員による家庭訪問が始まり、自宅でじっくり話し込まれた方も少な

くないでしょう。施設で多くの子どもたちを見てきた経験があり、子どもに直接関わってもらえるので、頼りになる存在です。ただ、現状では人員配置に地域によるアンバランスがあり、きめ細かな対応が必要です。

施設職員のノウハウを活かしたチーム養育は、会として長年要望してきた施策で、社会的養護が必要な子どもたちが背負っている負担を考えると、プロフェッショナルなサポートは不可欠です。養育家庭は普通の家庭であり続けながら里子を養育できるのが利点ですが、その利点を無理なく継続するためにも、里親に対する支援と同時に、里子への支援が重要と考えます。子どもにとっては、「必要なときに必要な支援や指導を、適切に実施すること」が重要ですが、実際にはスムーズに対応されているとは言い難い状態です。そこで会では、施設で蓄積している子どもへの対処能力を活用する道を提案しています。さらには、里親子のフォスターリング機能を担う役割についても要望しました。

#### 小学生や高校生は、その塾費、実態に合っていますか？ どの子にも教育保障を

現在、中学生は塾費が実費請求できますが、小学生や高校生では里親の自腹になっています。学校の授業だけで自力でついていける子どもばかりではありません。さまざまな原因から、発達障害や学習障害を抱えた子どもには、個性に応じたきめ細かい学習指導が極めて重要です。私たちの養育経験からも、学業不振に陥りがちな子どもには

小学校段階からの支援が重要と考えます。

一例を挙げると、幼稚園での課題についていくのが難しかった子どもに塾通いをスタートさせ、週2～3回の学習塾と週1回の発達障害を専門とする塾に通うことで本人の自信につながり、現在、普通クラスの授業に問題なく対応できているケースがあります。この事例では、月々の塾費が3万円前後。子どもが将来的に自立できる能力を養えるようにと里親が費用負担しています。また別の事例では、小5で授業についていけずに支援学級に編入した子どもに、個別指導の学習塾で基本的な学力を身につけさせているもので、この場合には月々3～4万円の支出となります。費用はかかりますが、それによって子どもの自信や学力は確実に向上しています。小学生ぐらいは里親が指導すればいいという見方もあるようですが、発達障害児に対する学習指導は専門家と歴然とした差があり、また、子どもも家族以外の大人に教わるほうが素直に勉強できる面もあります。



高校生の場合も、進学を目指す人は大半が学習塾や予備校に通います。高校生はクラブ活動なども含めたくさんのお金がかかります。加えて大学受験の滑り止めコストや複数受験する時の受験料も里親負担となってしまいます。委託家庭により待遇に差がでてしまうのは社会的養護として看過できない問題でしょう。会としては、実態に合った実費支給を要望しています。

## ❁ 「東日本ユースの集い」を開催しました。

ユース代表 作田成美

8月25日(土)～26日(日)に恒例の「東日本ユースの集い」を飯田橋セントラルプラザユースホテルにて開催しました。青森・静岡・東京から6名のユースと里親さん1名に参加して頂きました。

初日は、自己紹介や簡単ゲームをしたり、悩み事や家庭の事、学校や仕事の事など沢山の話し合いをしました。一人一人がきちんと発言をしていました。

2日目は、都内のアミューズメント施設に行きボーリングやエアホッケーなどをしました。良いチームプレーが見れて良かったです。今年の集いもケガや体調不良などもなく、無事に終わることが出来ました。

この集いを通じて新しいユースと出会えました。また、来年も参加したいと考えてもらえたら嬉しいです。参加して下さったユースの皆さん、お疲れ様でした。ご協力くださいました皆様、ありがとうございました。



## ✿2018 ほっとファミリー「感謝と交流のつどい」を開催しました。

11月4日(日)10時15分より東京都井の頭自然文化園にて、東京都・東京養育家庭の会 共催「感謝と交流のつどい」が開催されました。児童相談所/都職員47名、里親86名、子ども63名、里親支援専門相談員13名の総勢209名が集まりました。



大人は10年以上養育に当たられた養育家庭(里親)の皆さんの「養育家庭知事感謝状贈呈式」に参加、子どもは児童相談所職員・里親支援専門相談員の皆さんと一緒に文化園見学をしました。式典終了後は再度合流して、支部ごとに昼食をとりました。

小雨模様となり昼食後のゲーム大会は室内で行いましたが、椅子取りゲームとじゃんけん大会に子どもも大人も大盛り上がりでした。

14時の閉会後は、帰路に就くご家庭もありましたが、家族揃ってモルモットと触れ合ったり、リスの森を散策しているご家庭もありました。年に一度の交流会は盛況のうちに幕を閉じました。

## ✿今後の予定です。

11月29日(木) 支部長会

12月23日(日祝) 理事会



### 「2019年度 通常総会」

日程：6月2日(日)

場所：国立オリンピック青少年センター

※詳細は、後日お知らせ致します。

## ✿「巣立たせた里親の集い」

平成31年3月4日(日)中野サンプラザにて開催致します。来春満期年齢解除の里親さんにご参加ください。※詳細は「Tokyo 里親 net」2月号に同封のチラシをご覧ください。

## ✿会計よりご連絡します。

- ・今年度の会費未納の方は、お早めにお振込みください。
- ・つなぎ資金を貸し出しています。ご利用の方は養育家庭連携室までお申し込みください。



## ✿投稿を募集します。一人の体験を、皆の共有財産に

『NEWS こんにちは』では、会員の皆様の養育体験の記事化を企画しています。匿名でいいので、取材させてくださる方、ぜひご一報ください。メール：konnichiha@tokyo-yoikukatei.jp

## ✿相談窓口の利用方法のお知らせです。

相談を希望する方は、事務局まで直接お電話をいただくか、手紙またはFAXでご連絡ください。その際、相談員の下浦さんと直接やりとりできる連絡先(自宅などの電話番号)を必ずお伝えください。相談者のプライバシーは厳守します。

連絡先：養育家庭連携室 TEL 03-3371-4152 Fax 03-3371-4154

**編集後記：**\*里親体験発表をお聞きする機会が増えました。山あり谷ありの日々を送られているとつくづく感じます。誰も真面目で優しいです。「分かてるよ♡」温かい言葉が励みになると思いました。(若林博子)  
\*品川区で児童相談所の設置に向けて担当部署の方々と養育家庭の初顔合わせがありました。真摯な意見交換ができて、大変有意義でした。顔の見える信頼関係は大事ですね。関係各位に感謝(M.O.)

発行：NPO 法人東京養育家庭の会 発行責任者：青葉紘宇  
〒169-0074 新宿区北新宿 4-6-1 児童相談センター 養育家庭連携室

<http://tokyo-yoikukatei.jp/>

タイトルまわりデザイン hiroko wakabayashi